

学校教育課だより

かけはし

子どもの立場に

立つてみることに

学校教育課長

鳥越 雅幸



大型連休も終わり、ひと月が過ぎました。学級づくり、学校運営が順調に進んでいることと思います。通勤時、こやかに談笑しながら登校する中学生を見かけました。連休明けに市内校長会が開催されました。休憩時間に校舎内をまわらせていただきました。教室の出入り口が開放され、五月晴れのさわやかな風が吹き抜けていく中、「はじめましよう」の元気なあいさつとともに先生と子どもたちのやり

とりがあり、活気のある授業が展開されていました。また、廊下に掲示されていた絵画、デザインはどの作品も描きこんであるダイナミックな作品ばかりでした。この連休で何冊か本を読みました。その中に「セブンイレブンだけがなぜ勝ち続けるのか」という本があります。セブンイレブンの継続した発展、成長にとって何が重要だったかと言えば、「すべてについてとことんお客様の立場に

学校教育課だより
「かけはし」
【第2号】
平成 27 年
5 月 18 日発行
御殿場市教育委員会



立つて考え、実践したこと」を挙げています。「お客様のために」と言わずになぜ「お客様の立場で」なのか。「のために何かをする」という場合、どうしても自分ができる範囲内ということになってしまっています。いくらお客様のためといっても自分にとっては無理ということでは無理と排除されてしまいます。しかし、「お客様の立場で」となった時、それはあくまで「お客様の立場」が主軸に置かれるのであって、自分ができる、できない、の問題ではなくります。

このことを教育現場に置き換えた時、「お客」は児童・生徒になります。例えば、四十分、五十分の授業に参加する児童、生徒の立場に立つて考えてみるというように置き換えて、考えてみてはどうでしょうか。そこに座っている

子どもはどんな気持ちで聞いているのだろうか。この子たちに自分の話は通じているのだろうか。この問いを発した時、〇〇はどう反応してくるだろうか。その子の見方考え方は、授業も含めて、日常生活の掘り起こしを行い、朝の会や帰りの会での見取りの積み重ねが必要で。これらの営みを繰り返していくしか子どもも理解の深まりはないと思います。

新採の時、先輩から、「子どもたちが帰った教室の子どもの席に座って、今日何人の子どもと話をしたか、一日を振り返ってみる。」って言われたことを思い出しました。

「子どものために」から「子どもの立場に立つて」具体的な場面で考えたい言葉だと思いました。

幼稚園訪問記①

バイバイの手が…



原里西幼稚園と原里幼稚園の入園式に出席しました。後

ろのお父さんの存在を確かめるために何度も振り向く子どもが見られました。

幼稚園の入園式はお母さんと新人園児が並んで座ります。わたしの目の前に入場してきた母子。お母さんは抱っこひもで下の子を抱えています。園児を座らせたら、席を立つて黙って後ろの方に行つてしまいました。何だろうと見ていると、式場後部の大きな三脚に付けたビデオカメラをスタートさせに行つたのでした。

感心したのは、置いてかれたお姉ちゃんが行儀よく待っていることです。しばらくして戻ったお母さんを見てお姉ちゃん表情がみるみる和らぎます。

その後、下の子が泣き出し、お姉ちゃんを置いて今度は廊下に出ていきました。女の子は心細そうに後ろを見て、離れていくお母さんに遠慮がちにバイバイをしました。しかし、指が伸びて横に振られた「バイバイ」の手が、すぐに指が丸まって縦に動く「来て来て」の手になりました。言葉に出さないけれど、手に「お母さん、ここにいて」の思いを必死に送っているのです。

やはり心細いのです。戻ってきたときの嬉しそうな顔が本当に印象的でした。

新しい園舎、新しい友達、新しい先生、今までと全く違う生活リズム。こんな「激動の中の不安」でスタートしたそれぞれの園生活。あの子は今、元気で楽しそうに園生活を送っています。きつとこの子は、この子なりの園での居場所、安心感を見つけたのでしょう。子どもたちに安心して生きる園生活を常に用意し、接している幼稚園の先生方、本当にありがとうございます。

【勝又 立雄】

平成二十七年 生徒指導の重点

気がつくと、5月が終わろうとしています。先生方におかれましては、強さと優しさを兼ね備え、最後まで子どもたちに寄り添う指導を継続されていることと思います。落ち着いた形で、本年度の生徒指導が進められていることには大変感謝しております。さて、平成二十五年度に、

いじめ防止対策推進法が施行されました。それを受けて、平成二十六年年度には、いじめ防止基本方針が策定され、現在、市内すべての学校で、学校いじめ防止基本方針が策定されています。これらの方針は「未然防止」に主眼が置かれています。この未然防止という視点は、いじめだけではなく、不登校や問題行動に対しても大変重要です。「後始末より前始末」「先手必勝」これらは、生徒指導の場面でよく耳にする言葉です。御殿場市は今年度も、問題対応型の生徒指導から健全育成型の生徒指導への転換と継続を目指します。

生徒指導で大切にしていきたいのは、深い子ども理解を基盤にして、子どもの心情を共感的に受け止めていくことです。授業や特別活動などでの教師の「仕掛け」を通して、教師と子ども、子ども同士の信頼関係が深まり、温かい自治的な集団が作られていきます。この積み重ねが、子どもたち一人一人の自尊心を深めていくとともに、規範意識や人権意識を高めることにつながります。【石田 善正】

御殿場市幼稚園・保育園・こども園・小学校・中学校教職員合同研修会

五月十六日に幼稚園・保育園・こども園・小学校・中学校教職員合同研修会が御殿場市民会館を会場に開催されました。会場には公立私立の幼稚園教員、保育士、小中学校教員、教育委員の皆様、主任児童委員の皆様等、およそ二百十名、集まりました。

本年度は、日頃の保育や教育活動の実践研究発表、勝又将雄教育長による講演、小学校区別分科会での協議の三つの柱からプログラムを構成しました。

全体会前半では、高根第二保育園の岩田恵美子先生が、保育園における食育実践に基づく食育プランの提案、富士岡幼稚園の鈴木麻冬先生が、幼児期の生活習慣確立に向けた家庭との連携の在り方、高根小学校の田方峰樹先生が、地域に生きる児童へ浸透するキャリア教育の実践の三つの実践研究について、研究の成

果を発表しました。三人の先生方の研究は、食育、生活習慣の確立、キャリア教育といったそれぞれ違った視点からのアプローチではありましたが、どの研究についても子どもたちの成長を点で捉えるのではなく線として捉えながら、実践を進めていったという点では、共通していました。この点から線へ捉えを、教職員一人一人が常に意識しながら、子どもたちと接していくことが大切であると感じました。

全体会後半では、勝又将雄教育長が「御殿場市の幼保小中一貫教育の目指すもの（連携の必要性と重要性）」という演題で、講演を行いました。教育長さんの豊富な教育実践の中から具体的な事例を挙げ、連携・一貫教育の必要性と重要性を分かりやすく丁寧な話してくださいました。参加者の皆さんの時折「そう、そう。」「うん、うん。」とうなずきながら真剣に話を聴いていてい

る姿がとても印象的でした。講演の中で紹介された「子育て四訓」をこの紙面の最後に掲載します。

最後に、参加された先生方のアンケートの内容をいくつか紹介します。

保育園や小学校での実践を聴き、保育に生かしていきたいと思いました。（幼稚園）
地域ごとまとまって連携した取組をしていくことが大切だと感じました。（小学校）
「学びの土台」「学びの進化」は、一貫研のベースであると納得しました。（中学校）

【小越 隆則】

- 〈子育て四訓〉
- ・乳児はしっかりと肌を離すな
 - ・幼児は肌を離し手を離すな
 - ・少年は手を離し目を離すな
 - ・青年は目を離し心を離すな
- 平成二十三年『日本時事評論』より

